

COVID-19 感染症対策への取り組み

医療法人社団鴻愛会 こうのす共生病院 血液浄化センター

○原田悦子 倉林 幸子 富樫佑平 内田祐司 富岡淳 佐野達郎 小林文

当院では COVID-19 感染者の透析治療を行う中で感染対策を実施し、患者の早期対応とクラスター防止に努めた。自施設で治療を実施する中、7ヶ月で7名の患者が罹患した。対象者は32名で、平均年齢は74.5歳、透析歴は70ヶ月。介護申請者は13名。感染対策として、透析治療時間の曜日・時間の調整やレッドゾーン・イエローゾーンの区分、出入口別設定、ベッド間隔の拡大、特定スタッフの限定対応、入室前の抗原検査および症状確認、PPEの徹底、空気清浄機装置や陰圧ブースの活用を行った。入院隔離中のリハビリ介入がADL低下予防、体力維持に寄与した。患者指導の徹底と施設連携が早期対応の鍵となったものの、エアゾール感染対策に課題が残ることが示唆された。今後も感染対策の改善と検討が重要である。